**< 運営推進会議における評価\_様式例 >　※公表用**

別紙３－３

【事業所概要】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 法人名 | 有限会社池ちゃん家・ドリームケア | 事業所名 | 西焼津看護多機能ホーム「池ちゃん家」 |
| 所在地 | （〒　425　－　0077　）  静岡県焼津市五ケ堀之内530|-3 | | |

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

|  |
| --- |
| **・医療的ケアの必要な方々に必要なケアを提供し、生活機能の維持、回復に努める**  **・家族の介護負担の軽減を図り、本人、家族が安心して在宅での生活が継続できるよう支援する**  **・介護職員も医療的ケアに携わりながら、在宅での看取りを支援する** |

【自己評価の実施概要】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 事業所自己評価  実施日 | 西暦　　　2022 年　　　12月　　22　日 | 従業者等自己評価  実施人数 | （　　14　 ）人　　　　　　　　※管理者を含む |

【運営推進会議における評価の実施概要】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 実施日 | 西暦　　　2023年　　　1月　　 15 日 | 出席人数（合計） | （　　8　　　）人　　　　※自事業所職員を含む |
| 出席者（内訳） | □自事業所職員（　３人）　　□市町村職員（　１人）　　□地域包括支援センター職員（　１人）　　□地域住民の代表者（　３人）  □利用者（　０人）　　□利用者の家族（　０人）　　□知見を有する者（　０人）　　□その他（　　０　人） | | |

■ 前回の改善計画の進捗評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目 | | 前回の改善計画 | 実施した具体的な取組 | 進捗評価 |
| Ⅰ．事業運営の評価  （評価項目1～10） | | アセッサーの養成をし、研修会の開催。  キャリア段位の取得に向けた計画を立て  実地していく。 | 社内の介護技術研修を行い、根拠を含めた介護技術の統一を図った。  新たにアセッサー講習受講中２名、キャリア段位レベル４取得者１名と職員のキャリア段位取得に向けて取り組むことが出来た。  感染対策、防災、身体拘束等の委員会も定期的に開催出来ている。 | 計画的に研修、委員会を開催し、職員の資質向上に努めて下さい。  キャリア段位取得者が増えたことで利用者もより安心してサービスを受けられると思います |
| Ⅱ．サービス提供等の評価 | １．利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供  （評価項目11～27） | 利用者本人の意思や意向、家族の意向や介護力を考慮し適宜サービスの提供をする。リハ職と連携し介護職の出来るリハ  も実践していく。 | ガン末期、看取りの利用者も多く受け入れることが出来た。  利用者本人の意思や意向、家族の意向や介護力を考慮し、訪問利用も提案し、適宜サービスの提供ができた。 | 医療機関との連携を強めることで、利用者様とご家族が安心できると思います。  ガン末期や看取りの利用者が増えているとのこと。利用者の特性、変化に応じたサービスの提供は出来ていると思われる |
| ２．多機関・多職種との連携  （評価項目28～31） | 退院カンファ、退所カンファに必ず参加していく。病院と連携を密にしていく。  主治医に報告、連絡、相談を行い、予測対策をする。ICTを活用し主治医と密接な情報交換を行う。 | 退院後の在宅支援等、病院と連携できていたと思う。  看取りの利用者など、状態の変化が激しく、その都度主治医に報告、相談が出来た。  コロナ過ということもあり、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案は、あまり出来ていない。 | 看多機なので、病院、主治医との連携が大事だと思う。  主治医に報告、連絡、相談を行い、予測対策をしているようなので継続していただきたい。  コロナ過で思うようにできない事も多いと思いますが、今後、地域と関わりを持てる機会が増やせると良いと思います。 |
| ３．誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画（評価項目32～41） | 職員には資格取得や研修に積極的に参加してもらい、医療ニーズが高い利用者も安心して過ごせる体制を強化していく。  各種の講義研修を行い、地域の方々の参加を促す。 | 看取りの利用者も含め、医療的ケアが必要な利用者を積極的に受け入れることが出来た。  コロナ過の為、地域の方々に向けた研修は出来ていない。 | 利用者のニーズに応えたサービス提供が出来ていると思います。  情報発信など積極的にしていただければと思っています。 |
| Ⅲ．結果評価  （評価項目42～44） | | 利用者ごとの計画目標を確実にたてる。  達成状況を確認する。  看取り利用者も積極的に受け入れる。 | 看取り等、利用日数が短く、状況変化に応じて計画変更が追い付かない利用者もいた。  職員に利用者全員の計画目標が周知できていない。  看取り希望の利用者は積極的に受け入れ出来た。 | 職員間でも計画目標が確実に周知されるように出来ると良いと思います。  職員に利用者の目標周知を頑張っていただきたい。  看取りの利用者は今後も積極的に受け入れてもらいたい。 |

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | | 評価結果 | 改善計画 |
| Ⅰ．事業運営の評価  （評価項目1～10） | | 職員の介護技術研修やキャリア段位取得に向け、計画的に進めることが出来た。看多機職員２名がキャリア段位レベル４を取得できた。新人職員育成のマニュアルを作り直した。  災害等の緊急時の体制についてはBCPを作成し、各委員会を発足した。 | 介護技術研修終了後、４月から順次キャリア段位の取得を計画している。計画だけにならないよう進めていきたい。新人職員の育成をしっかりとやっていきたい。  リスクマネジメント、身体拘束、感染、防災等の委員会を引き続き定期的に開催していく。 |
| Ⅱ．サービス提供等の評価 | １．利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供  （評価項目11～27） | リスク管理、利用者の計画書等はしっかりと出来ている。  通所を希望される利用者や、看取り、重度利用者も多く、訪問数が前年からもあまり増えていない。 | 通い・泊まりの利用に過度に偏らないようにする。  通所を希望される利用者が多く通所に偏りがちなので、訪問数をふやしていきたい。訪問に行ける職員の育成や職員配置も考えていく。 |
| ２．多機関・多職種との連携  （評価項目28～31） | コロナ過の中で難しいこともあったが、病院と連携できていたと思う。  看取りの利用者など、状態の変化が激しく、その都度主治医に報告、相談が出来た。  民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案がまだまだ足りないと思われる。 | 民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案をもっと行っていきたい。  地域サロン等、もっと関われたら良い。 |
| ３．誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画（評価項目32～41） | たん吸引、ガン末期、看取りと受け入れ体制が、できており積極的に受け入れている。  コロナ過で難しいこともあったが地域住民向けの積極的な啓発活動は足りないと思われる。 | 町内の活動に出来るだけ参加する。  SNS等の発信も含め、地域住民向けに積極的な啓発活動を行っていく。 |
| Ⅲ．結果評価  （評価項目42～44） | | おおむね達成できている。 | 利用者ごとの計画目標達成を目指す。  看取り希望の利用者の積極的受け入れ継続。 |

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

| 番号 | 評価項目 | 事業所自己評価 | | | | | | | | | | | | 運営推進会議における評価  コメント記入欄 | 評価の視点・  評価にあたっての補足 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| よく できて  いる | おおよそ  できている | | | あまりできていない | | | | 全く  できていない | | | |
| Ⅰ　事業運営の評価　［適切な事業運営］ | | | | | | | | | | | | | | |  |
| （１） 理念等の明確化 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 1 | * サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている |  | ○ | | |  | | | |  | | | | 会社の理念として掲げているが一部含まれていない項目があり、医療ニーズや看取り等を含めた、看多機の理念を作ることが望ましいと思います。 | * ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 * ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 * 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」 |
| 会社の理念に掲げており、職員に理念が浸透するよう取り組んでいる。  理念に含まれていない項目もあり、看多機の事業所の理念として作ることも検討したい。 | | | | | | | | | | | |
| 2 | * サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している |  | ○ | | |  | | | |  | | | | 朝礼時の理念の復唱等を行っていて理念の浸透もされていると思う。  浸透させた理念が実践に結びつくようにしていただきたい。 | * 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します * 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」 |
| ［具体的な状況・取組内容］  理念や基本方針等を掲示し、毎日朝礼時に復唱している。  新人職員研修マニュアルに、会社の理念等について項目があり教えている。 | | | | | | | | | | | |
| （２） 人材の育成 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① 専門技術の向上のための取組 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 3 | * 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している |  | ○ | | |  | | | |  | | | | 段階的に研修を実践している点が評価できる。  認知症基礎研修については、必須期日までに受講できるように計画を立てて下さい。 | * 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します * すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 * 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」 |
| ［具体的な状況・取組内容］  初任者研修、実務者研修、実践者研修、介護福祉士と段階的に研修、資格習得を提案している。資格がない職員にも認知症基礎研修を受講できるよう計画している。 | | | | | | | | | | | |
| 4 | * 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している |  | ○ | | |  | | | |  | | | | 職員のスキル向上には前向きに取り組んでいると感じる。  引き続き介護技術の向上に努めて下さい。 | * 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  法人外の研修受講する機会を全職員に設けている。  ネット配信フォローアップ研修も続けている。キャリア段位、介護技術研修に取り組んでいる。 | | | | | | | | | | | |
| ② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 5 | * 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている |  | ○ | | |  | | | |  | | | | 情報共有、コミュニケーション向上に努めていると感じる。  情報共有は確実にできるようにお願いします。 | * 「情報を共有する機会」の充足度を評価します * 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます |
| ［具体的な状況・取組内容］  月に１回カンファレンスを開催している。利用者の状態変化の情報共有ができるように、朝の申し送りや連絡ノートを活用している。 | | | | | | | | | | | |
| （３） 組織体制の構築 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① 運営推進会議で得られた意見等の反映 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 6 | * 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | 地域との連携をさらに向上されると良い。  運営推進会議で、利用者のご家族や地域の方の意見をよく聞いていると思います。 | | * 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  要望、助言はカンファレンスで報告し、話し合いをしている。地域との交流等、すぐに反映出来ていないものもあるが取り組めるよう検討している。 | | | | | | | | | | |
| ② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 7 | * 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | | 職員の方が働きやすい環境作りを引き続きお願いします。 | * 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します * 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます |
| ［具体的な状況・取組内容］  資格取得や研修参加への支援がある。  管理者による面談での精神的負担軽減。  育児休暇、リフレッシュ休暇など職員が働きやすい環境整備に努めている。 | | | | | | | | | | | |
| （４） 情報提供・共有のための基盤整備 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 8 | * 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている | 〇 |  | | |  | | | |  | | | 職員間での情報共有の為の方法をきちんと整備し、活用出来ていると思う。  ケアマネ、職員以外からの情報も迅速に共有できると良い。 | | * 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の２つの視点から、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  ケアマネージャーから随時、利用者様の情報が入ってくる。  職員間でも利用者の変化等の情報は、朝の申し送り、カンファレンス、連絡ノートを活用し情報の共有を計っている。 | | | | | | | | | | |
| （５） 安全管理の徹底 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① 各種の事故に対する安全管理 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 9 | * サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | おおおむね対策を講じていることが認められる。  定期的に訓練等の実施もお願いします。 | | * 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します   対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます |
| ［具体的な状況・取組内容］  医療・ケア事故の予防対策はマニュアルがあり、研修等で職員の技術、知識の向上に努めている。車内に交通安全マニュアルを置いている。  夜間訪問時防犯対策は携帯所持。  個人情報保護はマニュアル化されている | | | | | | | | | | |
| ② 災害等の緊急時の体制の構築 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 10 | * 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている | 〇 |  | | |  | | | |  | | 必要に応じて見直しをし、より良いBCPを目指して下さい。 | | | * 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します * 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます |
| ［具体的な状況・取組内容］  BCPにて対応方針を共有している。  安否確認方法は、災害伝言ダイヤルや、らくらく連絡網を活用。  災害時ケアはBCPを作成。 | | | | | | | | | |
| Ⅱ　サービス提供等の評価 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| １．利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| （１） 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 11 | * 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | 状況に応じ臨機応変に対応されていると思います。 | | * 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します * ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります |
| ［具体的な状況・取組内容］  介護状況により、就寝介助の訪問や宿泊の追加利用等、臨機応変に対応している。  ケアマネが利用者、家族の状況を思案し、家族の意見を含めたプラン作成を行っている。 | | | | | | | | | | |
| 12 | * 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | 介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有がされていると思います。  引き続き適切な情報共有をお願いします。 | | * 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します * 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます |
| ［具体的な状況・取組内容］  介護職、看護職間での共有はカンファレンスやミニカンファ、申し送り、連絡ノートでされている。 | | | | | | | | | | |
| ② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 13 | * 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | | 居宅サービス計画、看護多機能計画を作成されていて出来ていると思う。  利用者、家族の意向を十分に汲み取って計画作成を続けて下さい。 | * 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます |
| ［具体的な状況・取組内容］  ケアマネが家族、利用者の考えを把握し、居宅サービス計画、看護多機能計画を作成している。 | | | | | | | | | | | |
|  | * 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている | 〇 |  | | |  | | | |  | | | | 回復、向上が難しい利用者もいると思いますが、引き続き、リハ職と共に計画の作成をお願いします。 | * 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します * 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます |
| ［具体的な状況・取組内容］  リハ職と共に計画作成をし、介護職も利用者の機能訓練をしている。  重度化しているため、回復、向上まではいけず現状維持が精いっぱいの利用者も多い | | | | | | | | | | | |
| ③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 15 | * 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | | リスクについて利用者に説明することに加え、事業者でリスク管理ができると良いと思います。 | * 「状況変化の予測」と「リスク管理」の２つの視点から、充足度を評価します * 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です |
| ［具体的な状況・取組内容］  訪問看護指示書のある利用者に対しては、訪問看護計画を作成している。  主治医、看護師を中心に状況変化、今後起こりうるリスクを家族に話し了解してもらっている。 | | | | | | | | | | | |
| （２） 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 16 | * サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | | ケアが先行する場合も、少なくともケアの内容が適切か検討し、プランの変更は行って下さい。 | * 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の２つの視点から、充足度を評価します |
| 状態変化やリスクが起こりそうな予測ができる場合は、職員間で情報を共有しケアマネより計画変更へ繋げている。  看取り利用者等、状態変化が激しく計画変更に手が回らない時もあった。 | | | | | | | | | | | |
| ② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 17 | * 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している |  |  | | | 〇 | | | |  | | | | 利用者、ご家族様が居宅でも安心して過ごせるよう、適切な説明、状況把握、計画をお願いします。 | * 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します * 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です |
| 通所を希望される利用者が多いが、家族に出来ることはしてもらい、訪問利用も増やしていこうと契約の段階から説明している。  家族等を含めた居宅での生活状況の変化は、ケアマネが把握し職員に情報を降ろしてくれている。 | | | | | | | | | | | |
| ③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 18 | * 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | | おおむね目標を共有できていると認められる。 | * 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  利用者の状態に変化があった時は、すぐに看護師が主治医に報告している。  整形外科、リハ職と状況変化、目標について情報共有している。 | | | | | | | | | | | |
| （３）介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 19 | * 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | | 特に問題なく出来ていると思います。 | * 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します * 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です |
| ［具体的な状況・取組内容］  看護師は医療、介護全般を把握してもらい、介護職は日々の本人の状態を観察し気付きの報告を看護師にしている。 | | | | | | | | | | | |
| 20 | * 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | | 介護職、看護職、それぞれの専門性を活かし、適切に連携できる体制づくりをお願いします。 | * 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  利用者の変化、対応策ついて、声掛け、カンファ、朝の申し送り、連絡ノートで情報を共有している。 | | | | | | | | | | | |
| ② 看護職から介護職への情報提供および提案 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 21 | * 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | | 情報提供に加え、介護についての提案まで出来ると良いと思う | * 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します * このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の１つとして期待されます |
| 常勤看護師、訪問看護師の視点で利用者を看て、予後予測、維持回復について看護師で話し合い、介護職に伝えている | | | | | | | | | | | |
| （４）利用者等との情報及び意識の共有 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 22 | * サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | | 利用者の状態による部分は仕方がないと思う。  おおむね出来ていると認められる。 | * 「利用者等の理解」について、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  意思疎通できる利用者が多くはないが意思疎通できる利用者には説明している。  家族に対する説明はできている | | | | | | | | | | | |
| ② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 23 | * 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | | 留意点について、その都度説明できていて問題ありません。 | * 「利用者等の理解」について、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  計画の説明はケアマネから行い、日々変化していくこと、留意点については、その都度、介護職、看護師が説明している。 | | | | | | | | | | | |
| 24 | * 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている | 〇 |  | |  | | |  | | | | | | 分かりやすく丁寧な説明を心がけ、ご家族、利用者が安心して居宅でも過ごせるようお願いします。 | * 「利用者等の理解」について、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  意思疎通できる利用者が多くはなく、処置の内容や利用者の状況など医療的なことは看護師が家族に説明している。 | | | | | | | | | | | |
| ③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 25 | * 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している | 〇 |  | | |  | | | |  | | | | 在宅介護困難時の対応として家族の負担が軽減できていると思われる。 | * 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します |
| 本人の意思表示ができない時は家族の希望を考えサービスの提供にあたっている。在宅介護が困難になった時は宿泊や訪問を増やし対応している。 | | | | | | | | | | | |
| 26 | * 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている | 〇 |  | | |  | | | |  | | | | 家族との情報共有も大切であり、おおむね出来ていると思われる。 | * 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  ケアマネ、看護師が家族と面談し、情報共有、方針決定している。 | | | | | | | | | | | |
| 27 | * 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している |  | 〇 | | |  | | | |  | | | | ケア内容の説明や経過の説明もお願いします。 | * 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の２つの視点から、充足度を評価します * 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」 |
| 看取りをすると決まっている利用者の場合は、看護師がターミナルケア記録として残している。 | | | | | | | | | | | |
| ２．多機関・多職種との連携 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| （１） 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 28 | * 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している | 〇 |  | |  | | |  | | | | | 円滑な在宅への移行を支援していると認められる。 | | * 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します * 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます |
| ［具体的な状況・取組内容］  退院カンファには、ケアマネ、看護師が参加。退院後の主治医には、退院が決まった時点で状況報告し退院後の生活に備えている。 | | | | | | | | | | |
| ② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 29 | * すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている |  | | 〇 | | |  | | | |  | | 体調が不安定になった時の備えを十分にしてください。 | | * 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します * 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です |
| ［具体的な状況・取組内容］  ターミナル期は、主治医との連携も密になり、相談、報告回数も増えている。  体調が安定していると、対応方針の確認も更新されてないときがある。 | | | | | | | | | | |
| ③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 30 | * 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている | 〇 |  | | |  | | | |  | | | 主治医との連携により出来ていると思います。 | | * 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  携帯電話を教えてくれる主治医もいるし、緊急時は市立病院救急へと指示がある主治医もいる。  利用者の主治医ごとに確認している | | | | | | | | | | |
| （２） 多職種との連携体制の構築 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 31 | * 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている |  | 〇 | | |  | | | |  | | | 運営推進会議等で情報提供については出来ていると思います。  内容によっては、徐々に改善出来ていけば良いと思います。 | | * 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します * そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 * 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です |
| ［具体的な状況・取組内容］  コロナ過で運営推進会議を定期的に開催することができなかった。運営推進会議には町内会長などにも参加していただいている。情報提供、提案などは出来ているが実行、改善が上手くできない内容も多い。 | | | | | | | | | | |
| ３．誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| （１） 地域への積極的な情報発信及び提案 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信 | | | | | | | | | | | | | |  |  |
| 32 | * 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている |  |  | | | 〇 | | | |  | | | | 運営推進会議の記録は、主に外部の人が見られるようにしておいてください。  またその際は個人情報を保護するようにして下さい。 | * 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の２つの視点から、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  記録をファイルにして置いてあるが、日常業務が忙しく、全職員が記録は見ていないと思われる。記録のファイルに目を通すことができるよう、時間等の工夫をしていきたいと思います。 | | | | | | | | | | | |
| 33 | * サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている |  |  | | | 〇 | | | |  | | | | 地域住民への積極的な啓発活動をお願いしたい。 | * 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です * 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 * 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます |
| ［具体的な状況・取組内容］  コロナ過で地域行事の参加や説明会等も出来ていなかった。地域住民向けの積極的な啓発活動をこれから行っていきたい。 | | | | | | | | | | | |
| （２） 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 34 | * 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している | 〇 |  | | |  | | | |  | | | | 事業を実施していることが認められる。  引き続き看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に行って下さい。 | * 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に｢指定なし｣と記入してください * 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施してないていない場合は、「全くできていない」 * 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極の視点から、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  訪問看護ステーション「池ちゃん家」として事業を行なっていて、看護多機の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している | | | | | | | | | | | |
| ② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 35 | * 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている | 〇 |  | | |  | | | |  | | | | 「たん吸引」が必要な要介護者を受け入れることができる体制が整っていると思います。 | * 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください * 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 * 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  夜勤者も喀痰吸引の資格を持っており、吸引を必要とする利用者でも問題なく受け入れている。 | | | | | | | | | | | |
| 36 | * 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている |  |  | | |  | | | | 〇 | | | | 必要な際には受け入れできるよう、体制の構築をお願いしたい。 | * 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください * 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 * 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  今まで人工呼吸器を使っている利用者の問い合わせなし。  受け入れるには職員のスキルアップが必要。 | | | | | | | | | | | |
| 37 | * 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている | 〇 |  | | |  | | | |  | | | | 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っていると認められる。 | * 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください * 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 * 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  ガン末期で医療保険の訪問看護を利用しながら受け入れた方もいる。  主治医が決まれば受け入れに問題はない。「看取り支援」を必要とする利用者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている | | | | | | | | | | | |
| （３） 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| ① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 38 | * 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している |  |  | | | 〇 | | | |  | | | | 研修等を積極的に行っていくのが望ましい。 | * 「内容等の理解」について、その充足度を評価します * 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます * 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」 |
| ［具体的な状況・取組内容］  すべての職員が理解するには、まだまだ勉強不足。構築方針や計画もしっかりとは出来ていない。 | | | | | | | | | | | |
| ② サービス提供における、（特定の建物等に限定しない）地域への展開 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 39 | * サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している | 〇 |  | | |  | | | |  | | | | 引き続き積極的なサービス提供をお願いします。 | * 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します * 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます * 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」 |
| ［具体的な状況・取組内容］  自施設の有料ホーム利用者以外は、特定の集合住宅等に限定せず、自宅で生活されている方にサービス提供している | | | | | | | | | | | |
| ③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等 | | | | | | | | | | | | | | |  |
| 40 | * 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている |  |  | | | 〇 | | | |  | | | | 必要に応じて、包括や地域との連携方法の見直しをお願いします。 | * 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します * 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます * そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」 |
| ［具体的な状況・取組内容］  包括や地域の方との情報交換は出来ているが、課題提起までは出来ていない | | | | | | | | | | | |
| 41 | * 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている |  |  | | | 〇 | | |  | | | | | まずは利用者の介護が行き届くことが第一ではあるが、家族等の介護力向上にも取り組んでいただきたい。 | * 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します * 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます * そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」 |
| ［具体的な状況・取組内容］  介護力不足の利用者家族に対し、職員で介護を補ってしまい、周り巻き込んでいくことが不足している。  今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを積極的に促していきたい。 | | | | | | | | | | | |

| 番号 | 評価項目 | | 事業所自己評価 | | 運営推進会議における評価  コメント記入欄 | 評価の視点・  評価にあたっての補足 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| Ⅲ　結果評価 | | | | | |  |
| ① 計画目標の達成 | | | | | |  |
| 42 | * サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている | １　ほぼ全ての利用者について、達成されている  ②．利用者の２/３くらいについて、達成されている  ３．利用者の１/３くらいについて、達成されている  ４．利用者の１/３には満たない | | | 利用者の状態に起因するものについては仕方ない部分もある。  必要に応じ計画の変更も考慮しても良いと思われる。 | * 「計画目標の達成」について、評価します |
| ［具体的な状況・取組内容］  目標設定によっては達成されていない利用者もいる | | |
| ② 在宅での療養生活の継続に対する安心感 | | | | | |  |
| 43 | * サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている | ①．ほぼ全ての利用者について、達成されている  ２．利用者の２/３くらいについて、達成されている  ３．利用者の１/３くらいについて、達成されている  ４．利用者の１/３には満たない | | 引き続き充実したサービスの提供をお願いします。 | | * 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します |
| 医療が必要な方に対して看護サービスは充実している。通所はもちろん、訪問看護も適宜行っている。 | |
| 44 | * サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている | ①．ほぼ全ての利用者について、達成されている  ２．利用者の２/３くらいについて、達成されている  ３．利用者の１/３くらいについて、達成されている  ４．利用者の１/３には満たない  ５．看取りの希望者はいない | | トラブルもなく、家族が満足しているとの言葉も得られている点から安心感を与えられていると認められる。 | | * 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します * 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます * 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「５．看取りの希望者はいない」 |
| ［具体的な状況・取組内容］  看取りをされた家族から「良かった」「安心した」「満足した」等の言葉が聞かれている。看取りのトラブルはない | |